

## 2学期終業式式辞

平成25年12月20日

皆さん、こんにちは。

今日で2学期が終了します。皆さんにとっては、どんな2学期だったでしょうか。2学期はじめに、とかく2学期は学校行事の多く中弛みしやすいと言われているので、そうならないように、私から皆さんに2つのことを意識して取り組むようにお話しました。

一つ目は、「夢を志に変える」ということです。「学は志を立つるに在り」「学びて時に習う」「学は必ず思うに在り」(『聖教要録』)という江戸時代の儒学者山鹿素行の言葉を紹介し、学問は志を実現するためである。その際、主体的な学びとなぜ学ぶのかと考えることが重要である。2学期は各自、自分の夢を志に変え、志を実現するために「何故なのか」という疑問を持ちながら、予習や復習をしっかりと行う、真の「学び」である主体的な学習を身に付けるよう求めました。

二つ目は、「自分の人間性を磨く」ということです。夏の高校野球で初出場・初優勝した群馬県代表の前橋育英高校野球部が、毎日のゴミ拾いから小さなことを見過ごさない、思いやりや小さな気づきという考える力がつき、相手の動きを見逃さないという守備の洞察力を身につけ優勝した話を紹介し、「こまかいことに気づくことを大切にする」「普段から考える習慣を身に付ける」ことを求めました。

皆さんは、この2つのことをどれくらい意識して2学期を過ごしましたか。意識するのとならないのでは結果は全く違ってきます。各自、あらためて振り返ってみてください。

さて、最初に話したように、2学期は学校行事の多い学期でした。41回目を迎えた文化祭、2学年の修学旅行、震災復興ボランティア、校内スピーチコンテスト、ロードレース大会、スポーツ大会の他、1学年のNPOカタリバによるキャリア教育と大学見学会、国際交流事業での留学生や在日外国人との交流のイックスチェンジプロジェクトや台湾の国立員林高級中学生の訪問など、新たな行事も実施し、「夢を志に変え」、学校行事等で「人間性を磨いてもらう」ため、生徒の皆さんの自己の在り方や視野を広げるさまざまな教育活動を展開しました。

文化祭である「やなぎ祭」では、伝統のダンシングコンクールに全クラス一丸となって取り組み、2年生は、広大な北海道を舞台にファームスティによる修学旅行で貴重な農業と家族との触れあいを体験しました。1年生はNPOカタリバの皆さんの協力によるキャリア教育による進路啓発と、大学見学会を実施し、将来の自分の進路を見据え、どんな高校生活を送るか、何を目標にしていくかということを考えてもらいました。また、1・2年生は、「高校生、世界にはばだけ！育成塾」で株式会社丸文の樋口智昭さんによる講演を聴き、視野を広げました。①成功=知識×能力×プロフェッショナルという「成功の方程式」、②ゴールから逆算して取り組む「SMART GOAL」という目標のテクニック、③期待・不安→判断→努力→達成・失敗→成長という「成長サイクル」とハングリー精神などの話を聞き、「海外に行ってみよう、語学研修や留学にチャレンジしたい、目標をゴールにして取り組みたい」など、皆さんの心に火をつける有意義な講演会となりました。

震災復興ボランティアでは、現地で被災者の話を聞き、「当時の悲惨な状況を連想し、今まで感じたことのない恐怖に襲われ、鳥肌が立った」「被災者の方々は、生きる希望と被災地復興の思いを旨に抱き、皆で支え頑張っている」「これからも被災地のことを考え、自分でできることをやりたい」など、参加者の感想が2F職員トイレ前に掲示してありますので、是非読んでみてください。

また、国際理解教育では、外国語科を中心に留学生をはじめ、台湾の国立員林高級中学生、県内在住の外国人との国際交流の取組など、異文化理解やコミュニケーションを図る機会として貴重な体験ができました。県の多言語支援事業を活用して、第2外国語の講師の先生方の協力でドイツ語・中国語・フランス語でも授業でネイティブな指導を受けることができました。

今年の校内スピーチコンテストのレシテーションコンテスト部門の課題文は、パキスタンで女性が教育を受けることを主張し、襲撃されたマララ・ユサフザイさんの「無知(非識字)、貧困、テロリズムに対して世界規模で戦いましょう。私たちに本とペンを持たせてください。それこそが、もっとも強力な武器

なのです」 「ひとりの子供、ひとりの教師、一本のペン、一冊の本、それが世界を変えることができるのです」 「教育こそが唯一の解決策です。まず、教育を」という教育の必要性を説いたスピーチでした。また、優勝した全唯利（ちよん ゆり）さんの、自分の名前を誇りにしていること、日本、坂戸高校の外国語科で学ぶことにした経緯、さらに「悪いことが起きた時、考えを少し変えるだけであなたの世界は前向きなものに変わります。わたしは過去に自分に起きたふたつの経験からこのことを学びました。人はたいてい悪いことが起こると、マイナス思考になり、物事を悲観的に捉えます。しかし、物事を多方面に見ることができたとき、あなたの人生は変わり、新しい自分に生まれ変わることができるのです」と前向きに考えることの大切さを述べた素晴らしいスピーチでした。2位の安元楓香さんの「命をつなぐ」という相田みつをの詩を引用した「人生は命のリレー」というスピーチも、同じく内容のある大変素晴らしいものでした。外国語科の生徒の皆さんのコミュニケーション力が確実に向上していると実感したコンテストでした。外国語科の生徒の皆さんのさらなるコミュニケーション力の向上を期待したいと思います。

その他、埼玉大学との連携によるサイエンスコロバでは合計8回の実験授業を実施するとともに、科学部の科学展の中央展への出展、113番目の元素を作り出した理化学研究所の森田浩介博士の「新元素の探索—現代の錬金術—」の講演会などを開催し、理系生徒の志を育む取組も行いました。森田博士は、「2番を目指したら3番にもなれない。1番を目指して取り組んだ」と、研究は1番を目指すべきものであるとのお話が大変印象的でした。日本人が命名した元素が周期表に載ることを期待したいと思います。

3年生は、推薦入試が終わり、志望校を確定して、センター試験をはじめ、一般受験に向け最後の追い込み段階に入りました。すでに2割の者の進路が決まっているようですが、受験は団体戦です。一般受験に臨む者がまだ8割います。進路が決まった者は一般受験する者を気遣い、自らも進学後に困らないように、最後までしっかり授業を受け学力を身に付けるよう取り組んでもらいたいと思います。経験的に言えば、3学期になって欠席をしたり、授業を疎かにする者は、受験は殆どうまくいってないと言うことを付け加えておきます。また、やや弱気になっている者もいるようですが、「入れる大学」を考えるのではなく、志望校を下げず、強気で、今は入るために最後まで努力してあきらめないことが合格の近道です。現役生は「受験の日の朝まで伸びる」と言われています。進路指導室横の先生方による「さくらのメッセージ」が生徒の心に届き、「サクラ咲く」の朗報が来ることを期待したいと思います。

ここで、目を世界に転じ、1学期の終業式で触れた南アフリカの元大統領ネルソン・マンデラ氏についてお話しします。12月5日、マンデラ氏が95年の生涯を閉じました。27年間、獄中から人種隔離政策であるアパルトヘイトと戦い続け、同国の大統領となつてからは「この美しい国で二度と再び、人が人を抑圧するようなことがあつてはならない」「人を許す心は最強の武器だ」と人種融和政策の大切さを説き、のちにノーベル平和賞を受賞しました。追悼式でアメリカのオバマ大統領は、「マンデラ氏が示してくれた手本がなかったとしたら、私の人生は想像できない」と讃えました。私たちもマンデラ氏が示した「自由と和解の尊さ」について忘れてはならないと思います。

悲しい知らせの一方で、嬉しい知らせもありました。今年のノーベル平和賞を受賞したオランダのハーグに本部のある化学兵器禁止条約により設立されたOPCW（化学兵器禁止機構）の初代査察局長を務めている秋山一郎さんが、代表の一人として表章式に参列しました。彼の「受賞は、新旧職員や条約加盟国みんなの力が合わさって受賞したもの」という談話は、国際社会の中で活躍する日本人を代表するメッセージとして大変嬉しいものでした。また、2020年オリンピックの東京誘致決定の知らせも嬉しい知らせです。56年ぶりのオリンピックは、子供たちに夢を与え、日本中に勇気と感動を与える機会となると思います。外国から沢山のお客様が日本にやってきます。7年後、皆さんの中で選手として、或いは通訳として、またはボランティアとしてオリンピックに関わる者が出ることを大いに期待したいと思います。

最後に、今一度、「夢を志に変える」「自分の人間性を磨く」ことができたかを振り返ることを確認し、この冬休みは健康に留意し、事件・事故に巻き込まれず、再び全員が、3学期元気に登校してくることを祈念して、2学期の終業式の式辞といたします。